

# 埋文にいがた

MAIBUN

新潟県埋蔵文化財センター

MAIBUN  
NIIGATA

2023 Nov.

第122号

発掘調査  
整理遺跡  
紹介

村上市上野遺跡、柏崎市丘江遺跡

埋文インフォメーション、わが町の文化財紹介 県内の遺跡・遺物



どんだけ埋まってる？  
(村上市上野遺跡)



2023年度  
発掘調査  
遺跡の紹介

## 上野遺跡 縄文時代後期の大集落

所在地：村上市猿沢・檜原地内

上野遺跡は、三面川の支流・高根川右岸の扇状地に立地します。7年目となる今年度の発掘調査では、縄文時代後期前葉（約4,000年前）の大集落の全体像がみえてきました。集落の範囲、居住域と廃棄域の位置関係がはっきりとしたことは、当時の集落構造を知る上で重要な成果といえます。居住域では平地建物、掘立柱建物、竪穴建物、敷石建物など、多様な形の建物140棟以上が密集して発見されました。これらは、同じ場所で繰り返し、建物が建てられたことを示しています。また、居住域を横断するように発見された流路の跡は、重要な区画であったとみられます。2022年度に大きな話題となった焼人骨集積土坑を含め、焼けた人骨を含む遺構を5基検出していますが、いずれもこれより東側で発見されています。流路の跡は、土地利用の境界を示す可能性があります。

居住域の北側では、遺構・遺物がほとんど見られなくなりますが、珍しい遺構や遺物を検出しま

した。似たサイズの平たい石が5枚重ねられた遺構、精巧なつくりの小さな注口土器は、集落の外縁で何らかのマツリが行われたことを示すのかもしれない。地形的に土石流の影響を受けやすい範囲にあたり、居住域はここを避けるように築かれたようです。

居住域の南西側と北東側では、廃棄域が見つかりました。今年度調査した北東側の廃棄域は、居住域より低い範囲で検出し、その間には小さな沢が流れていたことがわかりました。廃棄域からは、土器のかけらや石が多数出土しました。土器は煮炊きに使われた深鉢のかけらが大半で、壊れた土器が捨てられたとみられます。石は地山に含まれるもので、建物を建てる時などに発生した建設排土もここに捨てられたようです。

このように上野遺跡における縄文時代後期の大集落では、場を使い分けた様子が具体的にみえてきました。今後、検出した膨大な数の遺構を分析し、集落のあり方を明らかにしていく予定です。

(加藤 学)



調査区全景（南から）



集落の外縁で発見された  
平たい石が重ねられた遺構（西から）



多数発見された平地建物（西から）



集落の外縁から出土した注口土器  
（背面側・高さ8.5cm）



2023年度  
整理作業  
から

## 丘江遺跡

### 三次元計測を用いた遺物実測の試み

所在地：柏崎市田塚<sup>たつか</sup>

現在整理中の丘江遺跡は、鯖石川左岸の沖積扇状地にあり南東から北東方向に700mの範囲に広がる、縄文時代、弥生時代、平安時代、鎌倉時代から安土・桃山時代の長期にわたり営まれていた遺跡です。遺跡は、北東側に弥生時代の<sup>たてあな</sup>堅穴建物や多くの弥生土器が出土した川跡、鎌倉時代以降にその川を埋め立てて造った水田跡が、南西側に鎌倉時代から安土・桃山時代の多数の建物の柱穴・井戸・溝が見つかっています。遺物は縄文時代の土器、弥生時代の高杯・器台・甕・壺などの土器、<sup>りよくしよくぎょうかいがん</sup>緑色凝灰岩や<sup>てつせきえい</sup>鉄石英を素材にした<sup>くだたま</sup>管玉未成品、平安時代の土師器、須恵器の土器、鎌倉時代から安土・桃山時代の土師質土器・瀬戸美濃焼・<sup>すず</sup>珠洲焼、漆器・<sup>こづか</sup>箸・<sup>くし</sup>曲物・<sup>あじろ</sup>櫛・<sup>とうぼ</sup>網代・塔婆・柱・杭などの木製品、小柄・銭貨などの金属製品など様々なものが出土しています。さてこれらの遺物は記

録のため実測図を作成します。従来では遺物をデジバイダー、キャリパー、<sup>ま</sup>真弧、三角定規などの実測用具で測り、器形・文様・器面調整を図化していますが、複雑な形状、文様などを詳細に測り図化するには時間がかかります。

そのため作業の円滑を目的に2023年度から三次元計測を取り入れて遺物実測の作成を行っています。対象遺物の三次元モデルを作成し、大きさ・正面位置など調整をした下図を基に実測図を作成しています。測りづらい器台の脚部の内面や脆くて真弧があてられない漆器などの形状・断面、石器の展開図の下図を短時間で作成できています。

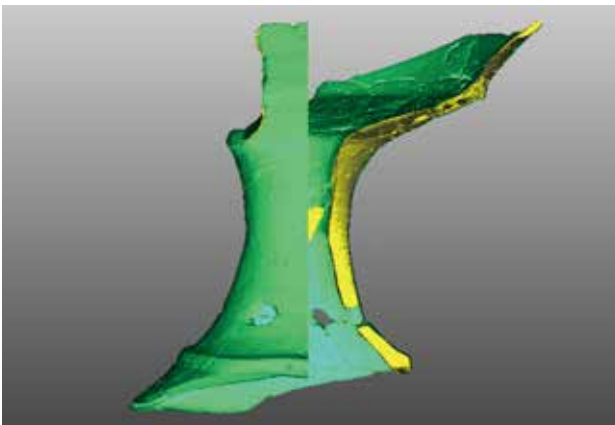
三次元計測を用いた遺物実測は、導入を始めたばかりで試行錯誤しながら実践していく予定です。(飯坂盛泰)



管玉未成品の三次元モデル



漆器の断ち割り画像



器台の断ち割り画像



漆器の底面画像



埋文  
インフォ  
メーション

2023年度企画展2  
発掘！新潟の遺跡2023

1月12日（金）～3月20日（水・祝）（期間中無休）

（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団が2023年度に実施した最新の発掘調査と整理作業の成果を出土品や写真で解説します。村上市上野遺跡（縄文時代後期）、柏崎市丘江遺跡（中世）、南魚沼市金屋遺跡（平安時代）・余川中道遺跡（古墳時代～中世）・六日町藤塚遺跡（古墳時代～鎌倉時代）、上越市下割遺跡（縄文時代後期・飛鳥時代～中世）を展示します。また、丘江遺跡「金箔が押された木製塔婆」は保存処理後、初公開となります。ぜひご覧ください。



金屋遺跡「平安時代の遺構から出土した勾玉」  
（長さ3.2cm）

- ◆ 会 期：2024年1月12日（金）～3月20日（水・祝）
- ◆ 時 間：9：00～17：00
- ◆ 会 場：新潟県埋蔵文化財センター
- ◆ 観覧無料
- ◆ 関連催物
  - ・ 発掘こぼれ話
    - 1月17日（水）
    - 2月14日（水）
    - いずれも
    - 13：50～15：20
  - 定員：会場80名  
（当日先着）



丘江遺跡「金箔が押された木製塔婆」

第27回遺跡発掘調査報告会

3月3日（日） 10:00～16:00

2023年度の調査成果報告、および丘江遺跡「金箔が押された木製塔婆」をテーマにしたシンポジウムをおこないます。丘江遺跡「金箔が押された木製塔婆」は2021年度、2022年度の調査で出土し、その後、保存処理が行われていたものです。詳細は企画展2チラシ、HPをご覧ください。

- ◆ 開 催 日：2024年3月3日（日）
- ◆ 時 間：10：00～16：00
- ◆ 会 場：新潟県埋蔵文化財センター  
（オンライン配信あり）
- ◆ 参加無料

- ◆ 内 容
  - 2023年度の調査成果報告（村上市上野遺跡、南魚沼市金屋遺跡・六日町藤塚遺跡、上越市下割遺跡）
  - シンポジウム「柏崎市丘江遺跡の木製塔婆からみた中世の葬送」
    - ・ 柏崎市丘江遺跡の金箔が押された木製塔婆
    - ・ 新潟県の板碑（水澤幸一氏／中世考古学研究者）
    - ・ 木製塔婆からみる中世の葬送墓制（狭川真一氏／大阪大谷大学）
    - ・ パネルディスカッション



埋文  
コラム

わが町の文化財紹介—燕市—

幕島遺跡—遺跡保護のはじめの一步

幕島遺跡は、燕市幕島にある縄文時代後半の遺跡です。ここは、東頸城丘陵の北端部が平野に接して入り組んだ小丘陵と細長い谷底平野という地形となっています。また、付近には大正時代まで円上寺瀉という大きな沼沢地が広がっていましたが、幕島遺跡はこの瀉の北東側に面した丘陵端部にあります。

1960（昭和35）年、水田の用排水路変更工事に伴い、分水町教育委員会（当時）が「遺跡保護と遺跡の編年的位置づけ」を目的に発掘調査を行いました。

調査は工事範囲全てを対象としたわけではなく、幅約2m、長さ約4mの小規模なトレンチ調査でした。また、湧水のため調査は難航したと言われますが、およそ1.5mの深さまで10層に及ぶ各層ごとに縄文時代後期（約4,000年前）から晩期（約2,500年前）の土器や石器が多数出土し、低湿な土壌からはニホンジカやイノシシなどの哺乳動物の骨やクルミの殻などの種実類が出土しました。さらに、土偶や石棒といった祭祀に関する道具や、ヒスイの剥片も出土しています。

非常に小規模な発掘調査で、建物跡などの遺構は発見されませんでした。多くの出土遺物から縄文時代後半の人々の暮らしに関する大きな成果がありました。

幕島遺跡の発掘調査が行われた当時はまだ、開発行為に対する遺跡保護の取り扱いが定着していない時代でしたが、「遺跡保護」という目的で行政が行う発掘調査として燕市で初めての事例です。

幕島遺跡の調査は、遺跡を守り地域の歴史を今に伝えるという意味で、燕市の埋蔵文化財保護を支える「はじめの一步」と言えます。

なお、この時出土した縄文時代後期の香炉型土器は燕市の文化財に指定されておりますが、胴部に4つの窓が開く形状から「有窓土器」という名で親しまれています。

有窓土器の他、いくつかの考古資料は燕市分水良寛史料館（燕市上諏訪9番9号/月曜休館/有料）で展示しています。越後の禅僧・良寛とともに楽しみください。

（燕市教育委員会 松島悦子）



発掘調査の様子（1960年）



燕市指定文化財「有窓土器」



2023年3月24日 新潟県指定有形文化財〔考古資料〕

## 石船戸遺跡出土品 824点

遺跡所在地：阿賀野市堀越ほりこし

遺物保管：阿賀野市（阿賀野市歴史民俗資料館・旧大和小学校）

県内の  
遺跡・遺物  
119

石船戸遺跡は、阿賀野川旧河道右岸の標高8～9mの微高地上に立地します。1966（昭和41）年に実施された排水路工事中に発見されました。2012～14（平成24～26）年、県営湛水防除事業に伴い市教育委員会が発掘調査を実施し、縄文時代晩期初頭～前葉（約3,000年前）を主体とする集落遺跡であることがわかりました。集落は幅約80mの微高地上に広がり、堅穴建物、掘立柱建物、埋設土器、斜面廃棄場などから構成されます。

土器や石器のほか、遮光器土偶や動物形土製品、岩版など東北の影響を強く受けた多彩な遺物が出土しています。土器は、本場の亀ヶ岡式土器と比べても遜色のない美しいかたちと流麗な文様が多く見られます。出土した土偶の中で、高さ8.6cmの遮光器土偶頭部は、県内最大の大きさを誇ります。動物形土製品は11点出土しました。県内でこれほど多く出土した遺跡はありません。また、石棒の石材には、東北だけでなく関東北部の石材も用いられています。

一方、アスファルト関連遺物が1,300点以上出土しました。遺跡は石油産出地に近く、たくさん採取できたようです。交易品としても利用されたのでしょうか。阿賀野川を介した日本海側と太平洋側との交流・交易の実像に迫ることができる遺跡です。

（阿賀野市生涯学習課 古澤妥史）



遮光器土偶



縄文時代晩期初頭～前葉の土器



岩版（1・2）、動物形土製品（3～6）、石棒（7～9）



埋文にいがた 第122号 2023年11月24日発行

発行 新潟県埋蔵文化財センター Niigata Prefecture Archaeological Research Center

指定管理者：公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

〒956-0845 新潟市秋葉区金津93番地1 TEL:(0250)25-3981 FAX:(0250)25-3986

E-mail: niigata@maibun.net URL: https://www.maibun.net/



『埋文にいがた』のバックナンバーは（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団 HP でご覧いただけます。上の URL からご確認ください。